《2016 年夏期》計２２名

【藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座】
医学生
・前回２年前に参加させていただいた時と比べ、自分自身が臨床実習を経験したこともあり、よりスムーズに理解できるようになった点、より具体的なかたちで感じられた「障害を理解し、支えること」の難しさなどがありました。前回は七栗では１日のみのプログラムだったため、今回このように 2 日間にわたっての七栗でのセミナーに参加でき、患者さんの診察や訓練見学をより多く行うことができて良かったです。それを元に、ICF(ICIDH)の分類をし、ゴールや中間期を考えるグループワークを経験できたのは、大変勉強になりました。ありがとうございました。
・今回 2 日間参加させて頂きましたが、大変勉強になりました。自分の大学にもリハビリ科はありますが、やはり藤田保健衛生大学のリハビリは規模が違うと感じました。特にロボット分野は僕も大変興味があり、是非機会があれば詳しく学びたいと思いました。
・何回か参加させて頂いております。VE は何回見学してもいいと思っています。また次回私が来る時も見学させて下さい。言語（失語）については自分の大学でもあまり診る機会がなく、今回ご講義して頂いて勉強になり良かったです。グループワークは、なかなかヘビーでしたが、よかったと思います。実際の患者さんを通して学べたのがとてもよかったです。嚥下と言語は勉強する機会がなかなかないので、今後も機会があればセミナーに出席させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。
・GW に参加したのですが、1 日しか体験できなかったので、今回も参加させて頂きました。自分は現在、神経内科医を考えており、リハビリとは切り離せないので、非常に有意義な 2 日間でした。また機会があれば参加させて頂きたいので、よろしくお願いします。
・とても楽しかったです。リハビリ科になりたい気持ちが高まりました。また参加したいです。特別なプログラム等も用意していただき、ありがとうございました。
・セミナー前はリハビリのことについて全くといっていいほど知りませんでしたが、このセミナーを通じてイメージをつかむことができました。２日目は実

際の患者さんに対して診察の一部をやらせてもらうことができて、たいへん勉強になりました。現在４年生ということで来年度からスタートするポリクリに今回の体験を是非生かしていきたいと思います。都合で二日間しか参加できなかったので、次の機会があれば三日間参加したいと思います。
・このセミナーの一番良いところは実際に体験して学べるところだと思いました。また、講義（ミニレクチャー）と体験がセットになっていたのが、さらに良かったです。私の大学ではリハビリの講義は１コマしかなく、リハビリ医の存在も知らないような感じでした。今まで興味はあったけど、ほとんど学んでこなかった（学べる環境になかった）私にとってはこの上ない機会を頂き本当に感謝しています。次回も内容が違うようであれば是非参加したいと思います。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
・多くの先生のお話を伺えて良かったです。実際に体験することでイメージも大分クリアになってきました。どの先生も丁寧に何でも教えてくださったので、質問もたくさんできました。セラピストの先生とのお話は貴重な機会でした。また、今回セミナーに参加されていた研修医の先生にもお話を行くことができ刺激を受けました。七栗記念病院のリハビリ室を見学して、多くの患者さんが長時間一生懸命リハビリされている姿をみて圧倒されました。
・３日間本当にありがとうございました。事前に詳細なスケジュールをお送り頂き・・・に始まり、ロボットリハビリや装具、VE 体験などなど。本当に盛沢山の内容でしたが、リハビリについて、その全体を３日間で見て体験させていただくことができました。また、懇親会でも色々なお話を聞けたこと、多くの方々と知り合うことができたことも、本当に良かったと感じています。リハビリについて、また少し身近になったと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。
・まだ１年生で専門的な知識的なありませんでしたが、全体的に実習型の内容が多く楽しみながら参加することができました。１日目と２・３日目でタイプの全く違うリハビリを見学することができて、全日程参加することで、リハビリに関して多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

研修医・医師
・体験型で充実しており、あっと言う間に時間が過ぎました。先生型の雰囲気もとてもやさしくてよかったです。

・想像していたよりもリハビリの学問の幅が広く、奥深いことに驚きました。患者さんの ADL など病院で何気なく見ていたことも、もっと深く考えてアプローチできるようになりたいと思いました。地方の大学や市中病院では学ぶことができないような内容がつまったセミナーでした。ありがとうございました。
・実際に体験すると患者さんの目線になれるので、とても理解しやすかったです。診察では先生が丁寧に教えて下さったので診察能力も身についたのではないかと思います。懇親会では先生方から深い話を聞けて将来について考える上での参考にさせて頂ければなと思います。どの先生方もやさしく質問しやすい雰囲気がアットホームでいいなぁと思いました。２日間ありがとうございました。
・回復期リハビリ病院でどのようなことが行われているのか、全く知らなかったので、実際に見て体験することが出来て、大変興味深く感じました。2 日間丁寧に様々なことを教えて頂きありがとうございました。
・リハビリに対し見聞が広がりました。2 日間ありがとうございました。

【鹿児島大学病院　霧島リハビリテーションセンター】
弘前大学 5 年生
　今回は医学生のためのリハビリテーション夏期セミナーに参加させて頂きありがとうございました。
　私は現在、大学５年生でリハビリテーション医の診療内容にとても興味を持っているため今回の夏期セミナーへ参加させて頂きました。以前は理学療法士として働いておりましたが、病院内でのリハビリテーション医の診療内容を深く理解していませんでした。また、リハビリテーション医はリハビリスタッフの治療内容やリハビリによる回復の状態を正確に把握しているのかどうか疑念を抱いていました。
　しかし、今回のセミナーではリハビリテーション医が PT・OT・ST・Ns を含めた他職種の行っている医療内容を把握し、実際にリハビリテーション医が患者さんの身体評価を行い、治療する技術を持ち合わせていることに驚きました。またリハビリテーション医が患者さんの自宅退院のために、実際に家屋調査へスタッフと同行しているという話も伺い、更に驚きました。患者さんを中心に医療スタッフの皆さんが連携して働いておられることが伝わりました。

　また、リハビリテーション医として薬の処方はもちろんのこと、装具の処方、ブロック注射、ボツリヌス注射の知識、排尿障害が患者さんの QOL に関わるということも把握し、患者さんの現状だけでなく今後の生活スタイルも考えて入院生活を管理していました。これはリハビリテーション医一人の考えではなく、他スタッフとの情報共有により正確な現状把握から予後予測まで行えているのだろうと感じました。
　この４日間ではリハビリテーション医の全ての診療内容の把握を行うことはできませんでしたが、リハビリテーション医という生き方に魅力を感じることができました。
　また、研修以外でも霧島神宮の観光や夕食会での下堂薗先生をはじめ多くの先生方や研修医の先生、他大学の学生と話す機会を得られ、とても有意義な４日間を過ごすことができました。

　鹿児島大学病院　霧島リハビリテーションセンターの先生方を含めたスタッフの皆様ありがとうございました。

医学部 6 年生
今回、初めてリハビリテーションセミナーに参加させていただきました、医学科６年生です。私がリハビリテーションの分野に興味をもつようになったのは、患者さんの普段の生活を支えることのできる分野に携わりたいからです。速く走れないならゆっくりでも走れるように、これまでのように歩けないならゆっくりでいいから歩けるように、歩けないからといって寝たきりになるのではなく車椅子で動けるように、自分で動けないなら自分の周りを活用して少しでも自分の思うように生活してもらいたいのです。残念ながら、私の大学では臨床実習の必修科目としてはリハビリテーション科を経験することができず、６年生の選択実習という形でリハビリテーションに触れることができ、それを機に色々なご縁で全国のリハビリテーション医の先生がたとお話できる機会をいただくことができました。その中で、鹿児島大学のリハビリテーション科の存在を知り、見学のタイミングを見計らっていたところ、実習先で出会った患者さんがまさに川平法で生活がしやすくなったというお話を聞くことができ、益々鹿児島大学のリハビリテーションを学びたいと考えていたところ、このセミナーの存在を知り、参加させていただきました。

２日間でたくさんの学びがありましたが、ここでは特に二点挙げておきたいと思います。一点目は、先生方がとにかく患者さんに触れている点です。鹿児島大学で学ばれている学生さんにとっては当然のことかもしれませんが、5,6 校ほど大学病院のリハビリテーション科を見学させてもらいましたが、鹿児島大学ほど患者さんに触れている施設は無かったように思います。リハビリ医が処方を出す際に、PT や OT だけでなくリハ医も患者さんにしっかり触れて評価に関わることで患者に現状の共有はもちろんのこと、リハ医として自身の技量のスキルアップにつながります。医師として当然のことだと思いますが、多くの施設では鹿児島大学のようにマンパワーもありませんし、システムとして形作られていないのが現状です。もう一点は、リハビリ医として成長するための教育体制の充実さです。２日間の中でも、カンファレンスをはじめ、回診や装具診などプレゼンする機会が多々ありました。そこでは下堂園先生をはじめ各先生方が若手の先生を育てようという思いがとても伝わってきました。若手の先生にしてみれば緊張の時間だと思いますが日々のこの経験がリハビリ医としての実力へと繋がっていくものだと強く思いました。
都合により２日間という短い期間となりましたが、今後の自分の進む道を決める上でも大変有意義な時間となりました。下堂園先生や宮田先生をはじめ多くの先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。再来年は霧リハで研修できるよう卒業試験、国家試験を突破したいと思います。また、全国からいろんな背景をもった学生や研修医の方とも交流ができ医学部に入学した頃の思いを思い出させてくれました。本当にありがとうございました。

【産業医科大学リハビリテーョン医学講座】
「”もう一度”を叶える」
「もう一度、走れるようになりたいな。」昨年従姉妹が病気になり回復に長期のリハビリが必要になった。走ることが大好きなのに、手足すら思うように動かせずもどかしい気持ちを打ち明ける彼女の話を聞き、少しでも何かできないかと思ったことが今回の夏季セミナーを志願した動機だ。
病気や怪我による後遺症の回復を図るための訓練を行う、というのがリハビリテーションのぼんやりとしたイメージであったが、具体的にリハビリテーシ

ョン医がどのように周りのPT、OT、STと連携し、どのような仕事をしているのか、実際は知らないことが山ほどあった。

実習ではtDS治療、外来診療、歩行解析、嚥下造影検査、ボトックス治療、嚥下内視鏡検査、自動車運転カンファの見学に加え、装具の装着、WalkAideの装着体験をさせていただいた。4年生の講義で習ったことのほとんどを実際に見学・体験することができ、どれも印象に残る良い経験となった。従姉妹と同じ病気でリハビリを続けている患者さんの前向きなお話しを聞けたことが最も印象深く、彼女を少しでも励ますきっかけを作れたと思う。また、リハビリテーション科は社会復帰の手助けをするという点で患者さんにとってより身近な存在であり、外来では日常生活の不便や精神的な悩みなどの相談にのる総合診療医的な一面も感じとった。そして、リハビリテーションにおいても今後技術が進歩する可能性を感じた。今回の実習を機に、自分もリハビリテーションに興味を持ったので積極的に学んでいきたいと思う。もう一度、病気や怪我になる以前の自分に戻りたいと願う患者の希望を、少しでも叶えるための力添えをすることが出来るリハビリテーションの仕事はとても素敵でやりがいがありそうだ。

たった１日の実習であったが、このような充実した内容を企画してくださった医局長はじめ産業医大リハビリテーション医学講座のすべての先生方に感謝申し上げます。

【佐久総合病院佐久医療センター】

この度、佐久総合病院リハビリ科にて5日間お世話になり、様々な経験と学習の機会を与えていただきました。

大学の実習でリハビリ科を回った際､その患者QOLに直接結び付くあり方と、日々身体機能が改善されていく様に大変興味を持ちました。疾患を根本から治療すること以上に、患者様が元の生活に戻ることこそが真のゴールであるということを学びました。

佐久総合病院のリハビリ科は規模も大きく、急性期から慢性期、訪問まで幅広く担っていることは存じておりましたが、実際にそれらを目にし、先生方に様々な事を教授していただくことで、良い意味で衝撃を受けると同時に、リハビリに関する考え方を根本から改める程の機会となりました。特に印象的だったのがテクノエイドの考え方です。生活をサポートする器具というと車椅子や

歩行具をイメージしやすいのですが、「コンタクトレンズもテクノエイドの一種である」というお言葉には目から鱗が落ちる思いでした。私たちは日々器具にサポートされて生活しており、リハビリはその大きな枠組みを形成していることを学びました。また、general な精神に基づいた先生方の診療、コメディカルの先生方の治療行為といった日常業務の水準の高さだけでなく、歩行パターンを解析するシステム開発などの先進的な研究など、多くの新しい学びを得ることができました。

【第 23 回伊豆リハビリテーション夏期セミナー】
自治医科大学さいたま医療センター　卒後 10 年目

伊豆のリハビリテーションセミナーではご指導いただきありがとうございました。
セミナーの内容はとても充実していて、講義のひとつひとつを今の担当患者さんに置き換えるととても身近に感じられて理解も深まりました。今回で最終回とはとても残念ですが、参加できて本当によかったです。
・難易度について
臨床経験があるため普通でした。
・見学や実習について
回復期リハビリテーション病院は初めてでした。急性期病院勤務中ですが、転院後の患者さんの様子を知ることができてよかったです。講義や実習の内容は今担当している患者さんに置き換えて考えていたので、とても理解が深まりましたし、同じく利用している評価方法もリハの先生方の視点でみるとまったく違い、より退院後の生活につながっている視点がとても勉強になりました。
・宿舎について
温泉あり、ホテルのように美しく、感激でした。自分が住んでいる職員住宅もこんなふうだといいのに、と思いました。
・食事や宴会について
伊豆を感じる海の幸に差し入れなどお腹いっぱいになりました。宴会はクイズ、マジック、すべてがおもしろくて楽しかったです。準備された先生方お疲れ様でした。またたくさんの先生方、学生さんと交流が深まってよかったです。
・スタッフの対応について

細かいところまでお気遣いいただき、ありがとうございました。
・セミナーに再度参加したいか
すべてが勉強になり充実したセミナーでした。またの機会があれば参加したいです。今回で最終回とはとても残念です。
・後輩や友人に話したいか？
参加前から周囲に話していたのですが、病棟でもできることはさっそく周囲と共有しています。かなり好評で、週末のカンファレンスで、セミナーのまとめを発表することになりました。
・セミナーを知った理由
セミナーはリハ学会のホームページから知りました。数年前から知っていましたが、日時の調整がつけられず、今回が初めての参加でした。
・その他
これほど先生方の専門に対する熱い思いを感じるセミナーは他にないと思います。講義や実習の内容の充実度はもちろんですが、各先生方がこれからリハを学ぼうとする学生・研修医にとても歩み寄ってくださっていて、先輩方のお話を伺ったりもできて、今後の医師としての専門医取得への道のりに加えて人生設計なども思い描くことができて､とてもすばらしい2日間だったと思います。本当にありがとうございました。

東海大学6年生
私は前の大学で理学療法を学んでおり、リハビリは身近なものでした。
疾患のみを見るのではなく、患者さんの生活やそれを取り巻く環境を含めて全人的にみるというリハビリの視点が好きで、これまでの経験を活かしリハ医を志望しております。
しかし、リハ医の仕事は何をしているの？という問いに対して明確に答えることはできませんでした。今回セミナーに参加し、先生方のお話を聞き、自分の中でリハ医に対するイメージがより具体的なものになりました。病態と患者さんの個人背景や環境背景から、いち早く障害像を把握しゴールを予測、適切なリハビリを処方。定期的に患者さんの状態とゴールを比較検討し、行われているリハビリが適切か検討。限られた期間とサービスの中で最大限患者さんをサポートしていく。障害像は病態、個人因子、環境因子、あらゆる因子を巻き込んで変化するものなので一元的に考えることは不可能で、それを対象として治

療するリハ医は一言で語るに難しいものだと実感しました。一方で各々の障害に対して適切に対応する柔軟性こそが、リハ医としてのプロフェッショナルなのだと感じました。
また、全国各地からリハ医を志望する医学生と話せて、大変良い刺激となりました。今回でセミナーが最後になってしまうと聞き、大変残念に思います。また、このような会が開かれ、そして再び参加できることを願っております。
お忙しい中、素晴らしい会を企画運営いただいた先生方に感謝致します。ありがとうございました。

【京都民医連中央病院】
心臓リハビリテーションを見学しました。ものすごい量のデータに驚きました。心電図と同期させて止まっている部分を集めるという発想には目からうろこです。